



Title	京阪式アクセントにおける2要素からなる4字漢語のアクセント：後部要素が状態や動作をあらわす場合
Author(s)	陳, 曦
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2016, 2015, p. 35-47
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57292
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

京阪式アクセントにおける2要素からなる4字漢語のアクセント

— 後部要素が状態や動作をあらわす場合 —

陳 曦

要旨 本稿では、京阪式アクセント話者と東京式アクセント話者を対象とした発音調査で得られたデータを比較することにより、2要素からなる4字漢語のアクセントが1単位に融合するかないかについて京阪式アクセントが東京式アクセントとおおよそ一致していることを確認した。また、京阪式アクセントにおける4字漢語のアクセントが融合する場合の式保存の実態について探ってみた。

1 はじめに

中井(2012)は東京方言の複合名詞のアクセントを大きく①「2語連続」、②「不完全複合名詞」、③「1単位の複合名詞」の3つのタイプに分けている。

①「2語連続」は「前部要素と後部要素の各語を単独で発音したときのアクセント型が、両方とも複合名詞にそのままの形で残されるもの」(例：格差是正，事務所閉鎖)である。それに対して、②「不完全複合名詞」と③「1単位の複合名詞」は複合名詞全体のアクセントが1つにまとまるものである。

具体的には、「不完全複合名詞」の特徴は、「前部要素のアクセント型が消え、後部要素のアクセント型が残る」ことである。例えば、「太陽エネルギー」(タイヨウエネルギー)の前部要素「太陽」のアクセントは頭高型①で、後部要素の「エネルギー」は中高型②だが、複合すると、前部要素のアクセント型は消滅し、後部要素のアクセントがそのまま複合名詞に残されている。

「1単位の複合名詞」とは「前部、後部ともその要素が本来持っているアクセント型が消滅してしまうものを指す」。例えば、「肩車」という複合名詞のアクセント「カタグクルマ」には、前部要素の「カタ」のアクセント核も、後部要素の「クルマ①」の平板型アクセントも残されていないのである。

また、「2語連続」は前後の要素が「並列関係」「格関係」「右枝分かれ構造」にある場合に生じやすいという。そのうち、「格関係」は「後部要素に置かれた名詞のもとになっている動詞(「是正する、閉鎖する」など)の目的語や主語にあたる名詞が、その前部要素となって、複合名詞がつくられている」場合を指し、「格差是正，事務所閉鎖，秩序崩壊，手続き終了，判断停止，政府介入，体力低下，原因究明」などの例が挙げられている。本稿では中井(2012)における①「2語連続」を「非融合」、②「不完全複合名詞」と③「1単位の複合名詞」を合わせて「融合」と呼ぶことにする。

以前、後部要素が状態や動作をあらわす4字漢語の融合・非融合に影響する要因は何なのかを明らかにすることを目的とし、首都圏生育の東京式アクセント話者6名に対して発音調査を行った¹⁾(以下「東京式調査」)。4字漢語の後部要素(Y)を述語と見た場合に前部要素(X)がその①必須項になっている場合

1) 陳曦(2016)「2要素からなる4字漢語のアクセント—後部要素が状態や動作をあらわす場合—」大阪大学大学院言語文化研究科修士論文。

と、②非必須項の場合との2つに分けてアクセントの融合・非融合との関係を探ってみた。

その結果、Xが必須項の場合の融合率は、Xが非必須項より低いことがわかった。また、後部要素(Y)が動作をあらわし、前部要素(X)が「ガ」「ヲ」「ニ」格に相当するものに限定して見ると、「ガ」格に相当するものの融合率が低いことが分かった。

さて、中井(2012)は「2語連続」は京都方言にも存在し、そして、その出現条件は東京方言の場合とほぼ同じであるとしている。ということは、東京式調査において融合(非融合)アクセントで発音された語は、京阪式話者も融合(非融合)アクセントで発音するということになるが、本当にそうであろうか。東京式調査で確認した融合・非融合の傾向は京阪式話者にも当てはまるだろうか。そこで、今回は4字漢語のアクセントが1単位に融合するかないかについて東京式アクセントと京阪式アクセントは同じであるかどうかを知ることを目的とし、京阪式話者に対する発音調査を行った。

また、東京式複合語アクセントとの大きな違いとして、京阪式アクセントには前部要素の式が複合語全体に継承されるという「式保存」の法則があることが知られている(和田 1942)。更に、式保存の例外が存在することが先行研究(中井 1996, 那須 2003, 中井 2012 など)で指摘されている。そこで、京阪式アクセントにおける4字漢語のアクセントが融合する場合、式保存が成り立っているかを観察することも今回の目的の1つである。

2 方法

2.1 調査語

東京式調査では語構造の観点から調査語を分類し、まず、前部要素(X)が状態や動作をあらわす後部要素(Y)の必須項であるか否かによって分類を行った。更に、Xが必須項である場合はYが動作か状態かによって分類し、Yが動作の場合にはYに対するXの統語的役割によって更に分類を行った。また、Xが非必須項の場合にはYに対するXの意味的役割によって分類を行った。こうして、語構造の違いとアクセントの融合・非融合の関係について探ってみた。

① Xが必須項

a. Yが動作

a-1 ガ格：戦闘激化，人気沸騰...

a-2 ヲ格：兵器輸出，再発防止...

a-3 ニ格：党規違反，課題対応...

a-4 その他：

カラ：貧困脱出，会派離脱...

Xが再帰代名詞：自己啓発，自己管理...

XガY/XヲY：試験開始，業績回復...

b. Yが状態

原因不明，経営不振...

② X が非必須項

- a. X が手段・場所を限定：電話取材，街頭募金...
- b. X が時間や期間を限定：一時休戦，早期発見...
- c. X が Y の目的：訂正放送，就職活動...
- d. X が状況を限定：飲酒運転，無事退院...
- e. 「X に関して」と解釈できるもの：軍事拡張，政治介入...
- f. X が Y の具体的な内容：募金活動，観護措置...
- g. X が Y の状態や動作のあり方を限定する副詞的成分
様態：有効活用，相互信頼，本格参入...
程度：高度成長，完全燃焼...
量：過少申告，過剰労働...
- h. X が Y の原因：原油汚染，石油汚染...
- i. X が主題になっているもの：文化協力，国境論争...
- j. 別の Z に対して X という属性の付与：贋作断定，国家承認...

今回は，調査協力者の負担や調査の所要時間など現実的なことを考慮し，東京式調査で調査した 429 語の中から，調査の結果アクセントの融合・非融合がおおよそ決まっている語²⁾について，分類ごとに語数を絞り，各分類の語数に比例するように調整し，調査語を計 97 語選出した。

2.2 調査協力者

今回の協力者は京阪式アクセントを使う若年層日本語母語話者 5 名である。

京阪式話者 1	男性	28 歳	大阪府東大阪市 (言語学専攻)
京阪式話者 2	男性	24 歳	大阪府枚方市 (言語学専攻)
京阪式話者 3	男性	23 歳	大阪府堺市 (言語学専攻)
京阪式話者 4	女性	23 歳	大阪府高石市
京阪式話者 5	女性	24 歳	京都府宇治市 (言語学専攻)

また，東京式調査の協力者は以下の東京式アクセントを使う日本語母語話者 6 名である。

東京式話者 1	男性	25 歳	東京都大田区出身
東京式話者 2	男性	27 歳	神奈川県横浜市出身 (言語学専攻)
東京式話者 3	男性	22 歳	千葉県木更津市出身
東京式話者 4	女性	34 歳	神奈川県横浜市出身 (13 歳から東京都文京区) (言語学専攻)

2) 調査の結果得られた非融合の発音回数（総発音回数は各語につき 12）が 0, 1, 9, 10, 11, 12 の語。

東京式話者 5 女性 19 歳 東京都品川区出身
 東京式話者 6 女性 29 歳 神奈川県横浜市出身 (言語学専攻)

2.3 発音調査

東京式調査と同じく、調査語を「〇〇〇〇がテーマです。」か「〇〇〇〇が問題になっています。」のようなキャリア文に入れこみ、このようにしてできた 97 文を調査協力者にランダムな順で提示し、1 文につき合計 2 回発音してもらった。

東京式アクセントによる影響を可能な限り排除するため、発音してもらう前に、東京式アクセントではなく、自分の普段のアクセントで発音するよう指示した。また、協力者が京阪式ではなく東京式の発音をした場合、自分の普段の発音で言うように指示した。ただし、そのように指示しても依然として東京式の発音をした場合があった。

さらに、京阪式アクセントにおける複合語の式保存を観察するため、京阪式話者 5 人のうち 3 人(話者 3, 話者 4, 話者 5)には、97 語全体の 1 回目の発音終了後、融合アクセントで発音した語について前部要素単独で発音してもらった。例えば、協力者が「首脳会談がテーマです。」(1 回目)の「首脳会談」を融合アクセントで発音した場合、1 回目全体の発音が終わってから、その前部要素である「首脳」を単独で発音してもらった。

3 結果と考察(1) 京阪式と東京式の比較

調査の結果得られた京阪式話者と東京式話者のそれぞれの非融合の発音回数(京阪式話者の場合、総発音回数は各語につき 10。東京式話者の場合、総発音回数は各語につき 12)を以下の表 1 に示す。

表 1 京阪式話者と東京式話者の非融合の発音回数

	調査語	前部要素が 必須項か		京阪式非融合回数 (各語の総発音回数が 5×2=10)	東京式非融合回数 (各語の総発音回数が 6×2=12)
1	首脳会談	必須	ガ	0	0
2	自家発電	必須	ガ	0	0
3	交通渋滞	必須	ガ	0	0
4	大気汚染	必須	ガ	0	0
5	意識変化	必須	ガ	1	0
6	一家団欒	必須	ガ	10	12
7	勢力減退	必須	ガ	10	12
8	人気沸騰	必須	ガ	10	12
9	濃霧発生	必須	ガ	10	12
10	犯人逃亡	必須	ガ	9	12

11	被害続出	必須	ガ	10	12
12	鉄砲伝来	必須	ガ	10	12
13	操業再開	必須	ガ	10	12
14	3期連続	必須	ガ	10	12
15	4年連続	必須	ガ	10	12
16	栄養補給	必須	ヲ	1	0
17	武力行使	必須	ヲ	2	0
18	情報提供	必須	ヲ	0	0
19	提案説明	必須	ヲ	1	0
20	入場制限	必須	ヲ	0	0
21	憲法解釈	必須	ヲ	1	0
22	安全保障	必須	ヲ	0	0
23	気象観測	必須	ヲ	0	0
24	技術開発	必須	ヲ	0	0
25	湿度管理	必須	ヲ	0	0
26	設備増強	必須	ヲ	10	12
27	経費節減	必須	ヲ	10	12
28	再発防止	必須	ヲ	10	12
29	連載開始	必須	ヲ	10	12
30	国旗掲揚	必須	ヲ	10	12
31	設備投資	必須	ニ	1	0
32	海外派遣	必須	ニ	0	0
33	年率換算	必須	ニ	1	0
34	課題対応	必須	ニ	10	0
35	社会復帰	必須	ニ	0	0
36	社会参加	必須	ニ	0	0
37	海外派兵	必須	ニ	0	0
38	記者会見	必須	ニ	0	0
39	軍事利用	必須	ニ	0	0
40	民間委託	必須	ニ	0	0
41	契約違反	必須	ニ	0	0
42	大臣就任	必須	ニ	10	12
43	導入反対	必須	ニ	10	11
44	解任反対	必須	ニ	10	11

45	代表内定	必須	二	10	10
46	連敗脱出	必須	カラ	10	12
47	危機脱出	必須	カラ	10	12
48	不況脱出	必須	カラ	10	12
49	冷戦脱却	必須	カラ	10	12
50	不振脱却	必須	カラ	10	12
51	自己啓発	必須	自己	1	0
52	自己管理	必須	自己	0	0
53	自己嫌悪	必須	自己	0	0
54	殺人未遂	必須	状態	0	0
55	社会不安	必須	状態	0	0
56	再起不能	必須	状態	10	12
57	住所不定	必須	状態	10	12
58	原因不明	必須	状態	10	12
59	予約不要	必須	状態	10	12
60	使用可能	必須	状態	10	12
61	前人未到	必須	状態	9	12
62	身体健全	必須	状態	10	12
63	人気絶頂	必須	状態	10	12
64	効果抜群	必須	状態	10	12
65	職務怠慢	必須	状態	9	12
66	交際順調	必須	状態	9	12
67	持続可能	必須	状態	10	11
68	利用可能	必須	状態	10	11
69	捜査不足	必須	状態	0	0
70	野菜不足	必須	状態	0	0
71	睡眠不足	必須	状態	0	0
72	校外学習	非必須		0	0
73	映像表現	非必須		0	0
74	一時休戦	非必須	時間や期間	8	9
75	早期解決	非必須	時間や期間	10	10
76	観光旅行	非必須		0	0
77	育児休業	非必須		0	0
78	飲酒運転	非必須		0	0

79	無事退院	非必須		10	12
80	政治介入	非必須		0	0
81	金融制裁	非必須		0	0
82	募金活動	非必須		0	0
83	観護措置	非必須		0	0
84	有効活用	非必須		0	0
85	共同研究	非必須		0	0
86	高度成長	非必須		0	0
87	完全燃焼	非必須		0	0
88	過少申告	非必須		0	0
89	過剰労働	非必須		0	0
90	原油汚染	非必須		0	1
91	石油汚染	非必須		0	0
92	文化協力	非必須		1	0
93	国境論争	非必須		0	0
94	贋作断定	非必須		10	10
95	国家承認	非必須		10	10
96	順次発売	非必須	時間や期間	10	12
97	随時参加	非必須	時間や期間	7	11

表1の調査語を個別的に見ると、東京式話者におけるアクセントの融合・非融合が大体決まっている語(得られた非融合の発音回数(総発音回数は各語につき12)が0, 1, 9, 10, 11, 12の語)は、京阪式話者(得られた非融合の発音回数(総発音回数は各語につき10)が0, 1, 2, 7, 8, 9, 10の語)においても大体決まることが分かる。このことから、2要素からなる4字漢語のアクセントが1単位に融合するかしないかについて京阪式アクセントが東京式アクセントとおおよそ一致していると言えよう。

調査の結果得られた非融合の発音回数に応じて、京阪式は0～2の語を「融合」、7～10の語を「非融合」と呼び、東京式は0～1の語を「融合」、9～12の語を「非融合」と呼ぶことにする。

表2は4字漢語の後部要素(Y)を述語と見た場合、前部要素が必須項と非必須項のときの京阪式と東京式話者の融合アクセントで発音した語数と融合率を示したものである。

前部要素(X)が後部要素を述語と見た場合の必須項にあたるものを、更にa「Yが動作」とb「Yが状態」に分ける。そして、a「Yが動作」を、Yに対するXの統語的役割によってa-1からa-5のように分ける。そのうち、a-1からa-3は前部要素Xが「ガ」「ヲ」「ニ」格に相当するもの、a-4は「カラ」格に相当するもの、そしてa-5はXが「自己」のような再帰代名詞であるものとする。また、b「Yが状態」のものを、後部要素Yが「不足」であるものと、そうでないものに分ける。そのそれぞれの場合における融合アクセントで発音した語数と融合率を表3に示している。

表 2 京阪式話者と東京式話者の前部要素(X)が必須項と非必須項の融合率

	語数	京阪式融合	%	東京式融合	%
必須	71	33	46%	34	48%
非必須	26	19	73%	19	73%

表 3 京阪式話者と東京式話者の前部要素(X)が必須項の融合率

	後部要素 Y		語数	京阪式融合	%	東京式融合	%
a	Y が動作		53	28	53%	29	55%
	a-1	ガ	15	5	33%	5	33%
	a-2	ヲ	15	10	67%	10	67%
	a-3	ニ	15	10	67%	11	73%
		(ガ, ヲ, ニ)	45	25	56%	26	58%
	a-4	カラ	5	0	0%	0	0%
	a-5	自己	3	3	100%	3	100%
b	Y が状態		18	5	28%	5	28%
		Y が「不足」以外	15	2	13%	2	13%
		Y が「不足」	3	3	100%	3	100%
	a&b		71	33	46%	34	48%

また、前部要素(X)が後部要素を述語と見た場合の非必須項にあたるもののうち、京阪式と東京式とも(1)の 7 語は非融合アクセントが得られた。そのうち、「一時休戦」「早期解決」「順次発売」「随時参加」の 4 語は前部要素が時間や期間をあらわすものである。

- (1) 一時休戦 早期解決 順次発売 随時参加
無事退院 贋作断定 国家承認

表 2・3 と(1)から、後部要素が状態や動作をあらわす 4 字漢語のアクセントの融合・非融合について、東京式調査で確認した以下 5 つの傾向が京阪式アクセントにおいてもかなり共通していることが窺える。

- ① 前部要素(X)が必須項の場合の融合率が、X が非必須項より低い。
- ② 後部要素(Y)が動作をあらわし、前部要素(X)が「ガ」「ヲ」「ニ」格に相当するものに限定して見ると、「ガ」格に相当するものの融合率が低い。
- ③ X が「カラ」格に相当するものの融合率が低い。
- ④ X が必須項のものうち、「Y が動作」より、「Y が状態」の融合率が全体として低い。
- ⑤ X が非必須項のもの融合率が比較的高いが、そのうち X が<時間や期間>をあらわすものの融合

表4 話者3・4・5の融合はアクセントにおける式保存

	融合 語数	融合率	I 式保存○ 語数	/融合語数	II 式保存× 語数	/融合語数	II-i 高→低	/式保存× 語数	II-ii 低→高	/式保存× 語数
話者3	52	54%	41	79%	11	21%	11	100%	0	0%
話者4	52	54%	40	77%	12	23%	11	92%	1	8%
話者5	54	56%	43	80%	11	20%	11	100%	0	0%

率が低い。

京阪式話者と東京式話者のアクセントの融合・非融合の選択はおおよそ一致しているとはいえ、表1の34番の「課題対応」という語はなぜか京阪式話者と東京式話者がそれぞれ「非融合」(非融合回数10)と「融合」(非融合回数0)という真逆の選択をしているところが興味深い。

4 結果と考察(2) 京阪式の式保存について

4.1 考察対象

話者3・話者4・話者5の3名に対して、1回目の発音終了後、融合アクセントで発音した4字漢語の前部要素単独のアクセントを調査した。この部分では、この3話者のアクセント融合時の式保存について話者別に詳しく見てみたい。同一話者が同一語を1回目には非融合アクセントで、2回目には融合アクセントで発音した場合もあるが、ここの考察対象は1回目に融合アクセントで発音したものに限る。

話者3・話者4・話者5が1回目に融合アクセントで発音した語数と、融合時の式保存成立(式保存○)・式保存例外(式保存×)の語数を表4に示す。3人の融合率に大差はなく、それぞれ52%、52%、54%である。そして、調査語97語中54語は3人のうち1人以上が融合アクセントで発音した。また、その式保存率はそれぞれ79%、77%、80%と比較的高い。これは、那須(2003)の調査で明らかになった若年層の82.7%³⁾という高率の式保存達成率とも一致し、那須が「若年層においても式保存は生産的な規則として機能している」と述べていることは本稿の調査にも当てはまると言えよう。

4.2 式保存の例外

さて、次に掲げる表5は、話者3・4・5が発音した式保存の例外、つまり前部要素単独の式と4字漢語の式が食い違っている4字漢語の項目、及びその前部要素単独のアクセント、4字漢語のアクセント、式保存例外のパターンを示している。以下、「高起式」を「H」、「低起式」を「L」という記号で略し、核の有無と語頭から数えた位置を、0, 1, 2, 3…(0は無核、1, 2, 3は有核)と表すことにする。

表5から、3人の計34回の式保存例外のうち、話者4の「石油汚染」という低起から高起への例外(「石油」が低起に発音、「石油汚染」が高起(融合)に発音)以外、残る33回が全て高起から低起への例外だと

3) 那須(2003)では、738項目のうち610項目は式保存が達成されている。

表5 話者3・4・5の融アクセントにおける式保存の例外

	式保存の 例外の語	話者3			話者4			話者5			計
		前部単独	4字全体	式保存 X	前部単独	4字全体	式保存 X	前部単独	4字全体	式保存 X	
1	自家発電	L0 か L2 ⁴⁾	L	/	L0 か L2	L	/	H1	L	高→低	1
2	観護措置	H1	H	/	H1	L	高→低	H1	L	高→低	2
3	育児休業	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
4	自己嫌悪	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
5	社会参加	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
6	自己管理	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
7	設備投資	H1	H	/	H1	H	/	H1	L	高→低	1
8	文化協力	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	H	/	2
9	自己啓発	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
10	大気汚染	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	H	/	2
11	軍事利用	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
12	社会復帰	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
13	社会不安	H1	L	高→低	H1	L	高→低	H1	L	高→低	3
14	石油汚染	H0	L	高→低	L0	H	低→高	L0	L	/	2
計	14 語			11 語			12 語			11 語	34

(「/」の項目は式保存が成立)

いうことに気がつく。若年層においては「低起から高起」より「高起から低起」の例外が多いという点は先行研究 (那須 2003 など)と一致している。

表5の式保存の例外14語の前部要素を前部要素モーラ別にあらためて下の(2)に示す。このうち、「自己」と「社会」がそれぞれ前部要素として3語に出現する。(2)から今回の式保存の例外は前部要素がすべて2モーラか3モーラだということが分かる。つまり、前部要素4モーラの語は全部式保存が成り立っているということになる。

(2) 前部要素2モーラ：自家 自己(3語)

前部要素3モーラ：観護 育児 社会(3語) 設備 文化 大気 軍事 石油

次に、3人中1人以上が融合アクセントで発音した54語の式保存率を前部要素モーラ別に表6に示す⁵⁾。

4) 「自家」は、その直後に「が」などの助詞をつけた形では発音してもらっていないため、L0かL2かが判別することはできない。

5) 同じ前部要素が複数回出現する「自己」と「社会」の場合、その都度カウントする。

表 6 前部要素モーラ数別の式保存の例外

前部モーラ数		融合語数	式保存×語数	式保存×率
2 モーラ		5	4	80%
3 モーラ		27	10	37%
	1+2 モーラ	12	3	25%
	2+1 モーラ	15	7	47%
4 モーラ		22	0	0%

表 6 から前部要素が 3 モーラと 4 モーラの式保存例外率の大きな差が確認できる。その理由としては以下の 2 つが考えられる。

前述のように、今回の式保存の例外のほとんどが高起から低起への例外と考えてよい。(3)は小川(2006)より引用した、京都方言における 3 モーラ漢語と 4 モーラ漢語の高起式と低起式の割合を示したものである。(3)から、3 モーラ語も 4 モーラ語も「高起式率>低起式率」であるが、低起式率から見れば 3 モーラが 4 モーラを大きく上回っていることが分かる。つまり、4 モーラ語と比べて、3 モーラ語では低起式がより選ばれやすいと言えよう。そのためか、3・4 モーラ漢語を前部要素とする 4 字漢語の融合アクセントにおいても、こうした 3 モーラ語は低起式が比較的多いという特徴を生かしたいという気持ちが働き、前部要素 3 モーラの語における高起から低起への例外が比較的頻繁に起こるのではないと思われる。

(3)	高起式率	低起式率
3 モーラ語	55%	45%
4 モーラ語	89%	11%

また、今回の式保存の例外語 14 語の、辞典に記載されている京阪式アクセント(表 7 の 3・4 列)と東京式アクセント(表 7 の 5 列)を見てみたい。3・4 列目の京阪式アクセントが、5 列目の東京式アクセントと同じ型で発音される場合がある(下線部、京阪式の H1 と東京式の頭高型)。これは那須(2003)が指摘しているように、話者がそのような前部要素を H1 と発音する場合、それが京阪式か東京式かを即座に断定できないことによる。前掲の表 5 から、式保存例外の 14 語は前部要素単独では H1 で発音された回数が圧倒的に多いことが分かる。もし、その中の「H1」が京阪式の H1 ではなく実は東京式に影響されて発音した東京式の頭高型であり、そして話者本来の前部アクセントに低起式の語が入っているとすれば、これらは高起から低起への式保存例外ではなく、式保存成立の項目になると考えられる。そう考えると、今回の前部要素 3 モーラ語の式保存例外の多さは前述のような実際に式保存が成り立っているかもしれないような語が入ってしまったことと関係する可能性がある。

表 7 式保存の例外語の前部要素の辞典アクセント

		前部アク<京都>(中井) ⁶⁾	前部アク<京阪系>(平山) ⁷⁾	前部アク<東京> ⁸⁾
1	自家発電	/	<u>2</u>	<u>1</u>
2	観護措置	L0, <u>1</u> ,L2s(「看護」)	1(「看護」)	<u>1</u> 「看護」
3	育児休業	<u>1</u> ,L0s,L2s	<u>2</u>	<u>1</u>
4	自己嫌悪	<u>1</u> ,L2s	<u>2</u>	<u>1</u>
5	社会参加	L2,L0s, <u>1</u> s	1;3	1
6	自己管理	<u>1</u> ,L2s	<u>2</u>	<u>1</u>
7	設備投資	L0,L2s, <u>1</u> s	1	<u>1</u>
8	文化協力	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>1</u>
9	自己啓発	<u>1</u> ,L2s	<u>2</u>	<u>1</u>
10	大気汚染	/	<u>2</u>	<u>1</u>
11	軍事利用	/	1;3	1
12	社会復帰	L2,L0s, <u>1</u> s	1;3	<u>1</u>
13	社会不安	L2,L0s, <u>1</u> s	1;3	<u>1</u>
14	石油汚染	0,L0s	1	0

(「/」の項目は当該辞書に収録なし)

4.3 その他

そのほか、同一話者同一語の低起式と高起式の交替が観察された。例えば、話者 4 の「記者会見」は 2 回とも融合アクセントで発音されたが、1 回目は高起式、2 回目は低起式であった。このように、今回観察された高低式の交替を以下の(4)に示す。

- (4) 話者 1：観護措置 大気汚染
 話者 3：記者会見 大気汚染
 話者 4：記者会見
 話者 5：社会参加

また、非融合アクセントで発音する場合、L0 の後部要素を H0 化するような発音が観察された。例えば、「連載開始」の後部要素の「開始」を単独で発音したときのアクセントは L0 であったが、「連載開始がテーマです。」という調査文を読むとき、「連載開始」が非融合アクセントで発音され、その後部要

6) 中井(2002)のアクセント記号の後の「s」は「複数のア型の併用の場合、その型の使用が稀なことを示す」。

7) 平山 (1960)の「2」は大体中井(2002)の「1」に相当し、高起式で 1 モーラ目後に下がることをあらわす。平山 (1960)の「1」は大体中井(2002)の「L0」に相当し、低起式無核をあらわす。平山 (1960)の「1;3」は大体中井(2002)の「L2」に相当し、低起式で 2 モーラ目後に下がることをあらわす。

8) 『新明解日本語アクセント辞典 CD 付き』(2013)におけるアクセント表示に従う。

素の「開始」のアクセントはL0ではなくH0になったというような場合がある。これは東京方言の非融合アクセントにおける後部要素のアクセント実現の弱化和似ていると考えられる。

郡(2016 予定)では、「正体不明」[「ショゝータイプ「p メー」]や「中国南部」[「チュゝーゴク「p ナ」ンブ」]などのように、アクセントがそのまま連結するタイプのことを「自立・協力型」と呼んでいる。更に、「ただ、発音としては後部要素の高さの動きが抑えられ（記号 p はそのことを示す）、抑え方が大きいと「正体不明」が[「ショゝータイプメー」]のような発音にもなる。」と述べて、実際の発音に注目している。また、なぜ後部要素の高さの動きが抑えられるのかについては、「後部要素のアクセントの音声的实现度を弱めて抑えることで全体としての一体感を持たせるためと考えられる」と述べている。

前述の「連載開始」における「開始」のH0化も、4字漢語全体の一体感を持たせるため、低起式から高起式への転換がなされたのではないかと考えられる。

そして、東京式アクセント話者と同じく、京阪式アクセント話者がいずれもこの後部要素が「不足」の「捜査不足」「睡眠不足」「野菜不足」の3語を、「不足」を「ぶそく」と連濁で発音し、しかも融合アクセントで発音した。更に、話者3・4・5のこうした連濁の発音において、式保存が依然として成り立っている。

5 おわりに

今回の調査を通して、後部要素が状態や動作をあらわす2要素からなる4字漢語のアクセントが1単位に融合するかしないかについて京阪式アクセントが東京式アクセントとおおよそ一致していることを確認した。

また、融合時の式保存について、次の2点において先行研究と一致している。①式保存の生産性、②若年層において「低起から高起」より「高起から低起」の式保存の例外が多い。

今後は話者の数と調査語数を増やし、今回得られた結果に一般性があるか否かを検討したい。

引用文献

- 秋永一枝(編)(2013)『新明解日本語アクセント辞典 CD 付き』三省堂.
- 小川晋史(2006)「日本語諸方言の2字漢語アクセント」神戸大学大学院修士論文.
- 郡史郎(2016 予定)「アクセントの複合形態と長い複合語のアクセント—『携帯電話電源オフ車両』などの説明原理についての覚え書き—」『音声言語 VII』近畿音声言語研究会.
- 中井幸比古(1996)「京都アクセントにおける式保存について」平山輝男博士米寿記念会(編)『日本語研究諸領域の視点』下巻, 1015-1055, 明治書院.
- 中井幸比古(編)(2002)『京阪系アクセント辞典』勉誠出版.
- 中井幸比古(2012)『日本語アクセント入門』第8, 10, 11章, 三省堂.
- 那須昭夫・吉永茜(2003)「若年層京阪式アクセントにおける式保存について」日本方言研究会第77回研究発表会発表予稿集, 65-72.
- 平山輝男(編)(1960)『全国アクセント辞典』東京堂出版.
- 和田実(1942)「近畿アクセントに於ける名詞の複合形態」音声学協会会報 71 号.